令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　793

事務事業名称		債権回収対策事務						
担当部署(R7年度機構)		部:　市民生活部		課:　債権回収課		区分	義務的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	非選択的区分	
	総合計画 施策目標	31.持続可能な行財政運営を進めます				性質	税務事務	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　2024(R6)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施)						
	根拠法令等	地方自治法、民事訴訟法、民法、枚方市債権管理及び回収に関する条例、枚方市債権管理及び回収に関する条例施行規則						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	私債権及び非強制徴収公債権各債権の回収率が高水準で維持されている。						
	対象者(受益者)	債権回収を行う債権所管部署、当該債権の滞納者						
	現状・課題	回収困難事案の滞納者がターゲットであり、自力執行権がないため回収に時間と費用を要する。						
	事業の概要	・各債権所管課から移管を受けた私債権及び非強制徴収公債権の滞納事案の管理・回収を行う。 ・市債権の公平・公正な債権の管理及び回収を適正かつ迅速に進めることを目的に設置した「市債権管理・回収対策委員会」の事務運営を行う。 ・債権回収に係る調査研究、企画、立案及び総合調整に関する事務を行う。						
	年間の主な事務	・債権各課の所管部長を委員とする債権管理・回収対策委員会を年3回開催する。 ・債権各課の課長を幹事とする債権管理・回収対策委員会幹事会を年3回開催する。 ・債権各課の実務担当者を対象とした債権回収課の弁護士資格を有した職員によるリーガル研修及び意見交換会を開催する。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	3.70人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	2.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	28,446	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	3,159	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		31,605	—	—	—		
	物件費計		294	—	—	—	1,604	18.3%
歳出計			31,899	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			294	—	—	—	1,604	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 市債権管理・回収対策委員会の開催	回	3 回	ー 回	ー 回	ー 回
② 市債権管理・回収対策委員会幹事会の開催	回	3 回	ー 回	ー 回	ー 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	市債権回収・対策委員会幹事会の開催
指標	各債権担当課長で構成する幹事会を開催。

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	3	3	3	回
実績	3	ー	ー	ー	回
算出方法					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	市債権管理・回収対策委員会の開催
指標	債権管理・回収のあり方や債権各課による徴収実績や取り組み報告の情報共有により公平・公正な債権回収の適正かつ迅速な執行に繋げるため開催。

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	3	3	3	回
実績	3	ー	ー	ー	回
算出方法					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

各債権担当課の担当職員による滞納債権の回収業務(直接)⇒各債権の実務担当者を対象とした債権回収課の弁護士資格を有した職員によるリーガル研修を実施し、各債権の実務担当者のスキルアップを図る。(中間)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	債権各課の取組目標や実績の報告、債権管理・回収のあり方などの情報共有の場として市債権管理・回収対策委員会を3回、幹事会を3回開催した。また、債権各課の実務担当者を対象に弁護士職員を講師としたリーガル研修を実施し、「枚方市債権管理・回収マニュアル」の活用や現状課題となっている事項や処理困難事案なども例に挙げ意見交換会を実施した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	今後も債権管理・回収を適正かつ迅速に進めていくため、市債権管理・回収対策委員会の開催方法なども検討し、円滑な運営ができるよう努めていく。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　862

事務事業名称			債権回収課運営事務					
担当部署(R7年度機構)			部:　市民生活部	課:　債権回収課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画	基本目標	9.施策体系外			細区分	行政運営区分	
		施策目標	99.施策体系外			性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性		所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
						—			
	事業期間		事業開始：　2013(H25)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等		決裁						
	関係附属機関等		該当なし						
	関係補助金等		該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態		債権回収課の各事業が円滑に運営できる状態。						
	対象者(受益者)		債権回収課職員・職場						
	現状・課題		管理職含め4人という少人数職場であることから情報の共有化の徹底及び担当の枠にとらわれない応援体制の構築。						
	事業の概要		＜債権回収課運営事務＞ 課の運営業務(庶務的事務) ① 債権回収課の賃金、休暇、人事、服務に関する事務 ②消耗品等の物品契約及び整理 ③ 債権回収課の予算、決算に関する事務保守等の事務						
	年間の主な事務		・予算の要求、執行管理。 ・物品の購入依頼や在庫管理 ・課内職員の給与や休暇等の報告 ・関係課との連絡調整						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.30人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	2,306	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		2,306	—	—	—		
	物件費計		0	—	—	—	0	0.0%
歳出計			2,306	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

	年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①				―	―	―

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①						
説明						
指標		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					
	実績					
	算出方法					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①						
説明						
指標		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					
	実績					
	算出方法					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	債権回収課運営の各事務(庶務的事務)を円滑に行うことができた。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	今後も業務の進捗状況等の情報共有を行い、円滑に進めていく。	R7年度方向性	**現状維持**

参考	方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
		現状維持	**現状維持**	―	―	―